

# 過去の震災の記憶

## 郷土資料館春季企画展「大磯の災害—かつてこの地で起きたこと—」

早いもので東日本大震災発生から2年。さらに、関東地方に甚大な被害を発生させた関東大震災発生から90年という大きな節目の今年。関東大震災を経験した方もわずかとなり、語り継がれることも少なくなりました。古文書や町の行政記録から、過去の震災の被害を振り返りました。3月9日（土）から開催する郷土資料館の企画展「大磯の災害—かつてこの地で起きたこと—」ではさらに詳しい資料も展示します。ぜひ、足をお運びください。

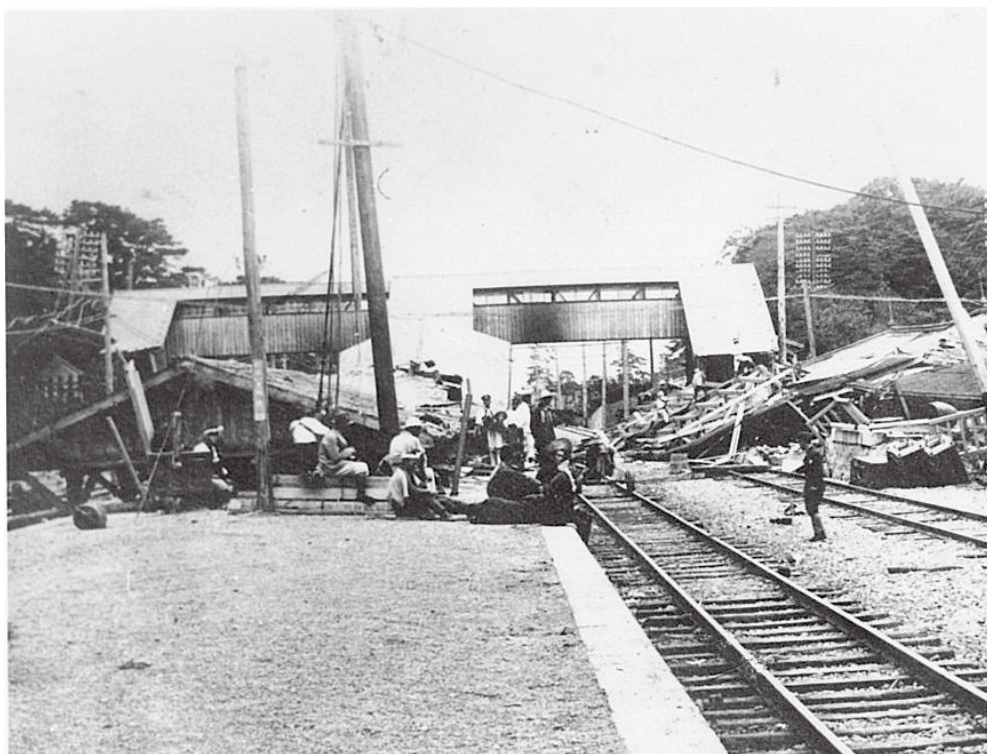
### 元禄地震

（過半数の建物が倒壊）

今をさかのぼること300年、江戸時代、元禄16年（1703）11月23日に起こった元禄地震は、関東地方に大きな被害をもたらしました。

当時の古文書によると、町内

では、過半数の建物が倒壊し、建物の下敷きになった人が50人余りいたと伝えられています。正確な死者数は不明ですが、少なくとも11人の方が亡くなりました。心配される津波の被害は、地震のときに高波がきて、沖の漁船が多数破損し、二百石積（約45t）の船が磯へ約200m打ち上がったと言われています。



▲関東大震災で倒壊した大磯駅（郷土資料館所蔵）

また、現在の高麗の方では、花水橋のたもとが大きく裂けて溝のようになり、周辺の街道では地割れから泥水が湧きました。周辺の山は崩れている場所が多くあり、樹木が多く倒れたそうです。

### 関東大震災

（列車の転覆と海岸の隆起）

大正12年（1923）9月1日午前11時58分、相模湾北西部を震源とするM7・9の地震が関東地方を襲いました。



▲隆起した海岸（「震災記録」より／図書館所蔵）

◀門などが傾いた警察署（「震災記録」より／図書館所蔵）



この日、大磯では地震発生前にわか雨が降りましたが、地震発生時は晴れて穏やかな天気でした。そこに突然震動が起こり、家屋が倒壊、海では異常な引き潮が見られました。町民は家を離れて安全な場所へ避難し、津波を警戒して高台に避難した人もいました。

実はこのとき、海岸が約2m隆起。海岸が大きく広がり、沿岸の地形が大きく変わったのです。関東大震災を体験した方の中には、「震災前は海岸が狭かったが、地震によって海岸が広がった。また、海岸が狭くなる」と大きな地震が起こるのではな

### 関東大震災による大磯町域の死傷者・倒壊数

	死者	負傷者	全壊	半壊	全半壊率
大磯町	33人	157人	245棟	205棟	26%
国府村	25人	27人	407棟	168棟	83%

『大磯町史』7より作成

### 関東大震災のときに倒壊したと記録に残る主な建物

大磯駅、大磯郵便局、大磯小学校、滄浪閣、城山荘、禱龍館、東光院、妙大寺、高来神社、日枝神社